

令和3年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

<p>1 一人一人の児童生徒の尊重</p>	<p>2 友達への思いやり</p>	<p>3 道徳・心の教育の充実</p>
<p>学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。</p>	<p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）</p>

それぞれの項目について、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の評価合計は、R2→R3の評価の比較で見ると、「1、一人一人の児童生徒の尊重」についての割合が教職員93%→96%、生徒89%→88%、保護者91%→84%。教職員と生徒の評価はさほど変わっていないが、保護者が7%減少しており、教職員と保護者の差が2%→12%と差が広がっている。一人一人の子どもが大切にされていると生徒も保護者も実感できる関わりがより必要であると言える。「2、友達への思いやり」についての割合は職員95%→96%、生徒98%→98%、保護者95%→97%と数値の変化もわずかで、良好である。「道徳・心の教育」については、「3・4」の割合が職員88%→96%、保護者89%→85%。今年度は「親子道徳の日」として授業で学習した内容を家庭で考えていただく取り組みを行った。今年度の保護者の認識も「道徳の学習」については十分高く評価されている。今後も「親子道徳の日」や通信等での啓発を通して、これからもさらに特別の教科「道徳」の大切さを保護者に理解していただくことが重要と考えられる。

②確かな学力を育む教育の推進

<p>4 意欲的な学習態度</p>	<p>5 授業力向上</p>	<p>6 タブレット端末活用</p>
<p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<p>子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。</p>

「3」「4」の割合をR2→R3と比較すると、「意欲的な学習態度」は、教職員88%→88%、生徒89%→82%、保護者84%→79%。「授業力向上」は、教職員100%→98%、生徒80%→77%、保護者90%→84%と下降した。保護者が直接学校に行く機会が減り無答が増えた。新学習指導要領が全面実施となり、新しい教科書や評価に変わり、そのことへの対応が下降の一因と考えられる。「タブレット端末活用」は、教職員100%→94%、生徒90%→92%、保護者93%→84%と生徒が上昇している。多くの生徒が情報活用能力に自信をもって学習に取り組んでいる。また、遠隔授業で学びを止めないことができるようになった。土日課題(家庭学習)、話し合いの可視化などの改善も始めたところである。ICTを有効に活用して学びを深めていきたい。

③健やかな体を育む教育の推進

<p>7 健康づくり</p>		
<p>子どもは、好き嫌いなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p>		

R2→R3の評価「3・4」の比較で見ると、教職員73%→40%、生徒80%→74%、保護者82%→79%という結果になった。今年度もコロナ感染防止による外出の機会の減少や家庭で過ごす時間が多くなったため、数値が減少したと思われる。委員会活動を中心に啓発を行う予定である。

①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

②特別支援教育の推進

<p>8 児童生徒理解</p>	<p>9 いじめや問題への対応</p>	<p>10 学校の支援体制</p>
<p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。</p>	<p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>	<p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>

「8.児童生徒理解」についてR2→R3の評価「3.4」の比較で見ると教職員100%→96%、生徒87%→79%、保護者91%→87%、それぞれ2年連続で減少している。今年度も感染症防止の観点から様々な行事が削減されたことが影響していると思われる。引き続き教育相談の充実、生活ノートの活用等の実践を継続することが必要だと考える。「9.いじめや問題への対応」についてR2→R3の評価「3.4」の比較で見ると教職員100%→100%、生徒89%→92%、保護者88%→83%、と高い評価を維持している。特に生徒からの評価が良くなっていることについては、教師の早期対応が生徒からの信頼を得ることにつながったと考える。「10.学校の支援体制」ではR2→R3の評価「3.4」の比較で見ると教職員95%→94%、保護者89%→92%と高い評価を維持している。校内においては各学期ごとに特別支援教育推進委員会を開催するとともに、必要に応じてケース会議を実施し、教育支援計画を立ててきめ細やかな支援を実施している。新入生については「連絡シート」の記入を行い、必要に応じて面談を実施したことで、スムーズな移行支援につながっている。今後、保護者への啓発の機会を設けていきたい。

②特別支援教育の推進

①子どもたちの身近な安全対策の充実

<p>11 共生社会を担う人材の育成</p>	<p>12 安全と事故防止</p>	
<p>「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。</p>	<p>学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。</p>	

